

美術家の奈良美智さん、 シリア難民の生活を体験

2019年3月上旬、「JPF×ART project」として、美術家の奈良美智さんとともに、ヨルダンの2つの難民キャンプ(ザータリ、アズラック)とホストコミュニティ(首都アンマン)を訪れました。

東日本大震災被災者支援の際に応援いただいた*奈良さんに、JPFが2011年よりイラク・シリア難民人道支援を実施しているヨルダンで、紛争により祖国から逃れて避難している人々と交流し生活を体験する機会を持っていただきました。

戦後最悪と言われる人道危機、気候変動により頻発する自然災害などにより、世界で支援を必要とする人々の数は増加しています。もはや、従来の方法や国連やNGOなどの支援関係者だけでは解決できず、多様な人々が連携・協力することは益々重要になってきています。

キャンプで奈良さんが歩いているとたくさんの子どもたちが集まってくる。アズラック難民キャンプ ©JPF



JPF×ART PROJECT

A CONVERSATION WITH YOSHITOMO NARA
EXPERIENCING THE LIFE OF SYRIAN REFUGEES

JPF×ART project

- ◆実際の出会いや共感を発信することにより、日本では身近に感じる機会の少ない難民問題について関心を持ち、自分ごととして向き合い、今までとは違う見方、気づき、深く考えるきっかけとなるよう、社会課題を含むメッセージや作品で世界中のファンに影響を与え続ける奈良さんにご依頼したものです。
- ◆同時に、社会課題に問題意識を持つ作家の作品づくりに対し、JPFとして貢献できることを目指しています。

*現地での様子は、現地滞在中はもちろん、帰国後も、奈良さんがご自身のTwitterでリアルタイムで発信してくださいました。JPFは、JPFウェブサイト、Facebook、Twitter、トークイベントの開催(→p12)などで本企画について発信しています。

JPF×ART project情報→



*JPFの東日本大震災被災者支援の際、ご寄付とメッセージ、作品掲載で応援していただきました。

奈良さんのメッセージ→





KnKの支援する学校でのトークセッション後、1人1人の生徒が描いた絵に感想やアドバイスをする奈良さん

現地訪問スケジュール

難民キャンプやアンマン市内で暮らす、シリア人家族や子どもたちとともに時間を過ごしました。「難民問題という大きなくりではなく、家族という最小の単位で見ている」と奈良さん。現地での様子や出会いを紹介します。

Day1

- AM ヨルダン・アンマン到着
- PM JPFセーフティ ブリーフィングミーティング

Day2 ザータリ難民キャンプ

- AM ■ キャンプ入所手続き
 - キャンプを運営する国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) のブリーフィング
 - コミュニティセンターで難民アーティストの活動を見学、活動をリードするファティマさんとお話。「表現ができることは、人々の生きがいになっています(ファティマさん)」
- PM ■ 難民の食生活を支える国連世界食糧計画(WFP)の運営するスーパーマーケット見学
 - キャンプ内で生活しているアブドラーさん家族とスーパーで材料を買い、家で一緒にシリア家庭料理をクッキングした後、ランチ



タッブーレというサラダを作るためにパセリをみんなで刻む

「洗ったお皿を戻されたけど、洗いがいまいちだったってこと? (笑) (奈良さん)」



スーパーでは瞳の彩光認証で会計が行われる



たっぷりの油で揚げた鶏肉。奈良さん滞在中で「一番美味しかった」そう! 決して生活は楽ではないのに、たくさんの料理でもてなしてくれたシリア人のホスピタリティを実感

Day3 ザータリ難民キャンプ

- AM ■ JPF加盟NGOの国境なき子どもたち(KnK)が支援している学校を訪問。奈良さんがご自身の育った環境や作品についてスライドで見せながらトークセッション
- PM ■ 男子生徒のクラスを見学
 - ムハンマドさんファミリーを訪問
 - キャンプの目抜き通りチャンゼリゼ通りへ



「障がい者の子もいるが、キャンプ内にはサポートがなくて困っている(ムハンマドさん)」



青森の地元の写真を見せながら、「日本もヨルダンもシリアも、同じ国でもいろいろな場所がある。みんなそれぞれに違う人間(奈良さん)」

Day4 アズラック難民キャンプ

- AM ■ UNHCR ブリーフィング
 - 仕事斡旋センター、チャイルドフレンドリースペース、職業訓練、陶芸活動、アートスペース見学
- PM ■ WFP運営スーパーマーケットやマーケットエリアを見学
 - アートスペースで出会った画家、サミールさんの家を訪問



シリアでも画家として活動していたサミールさんと作品を見せあう



「この絵は自分の内面を描いたもの。描かれたのではなく、本当に描きたくて描いたのだらうな(奈良さん)」

Day5 ホストコミュニティ(アンマン市内)

- AM ■ アンマンで暮らすアハダルさんファミリーの家を訪問
 - シリア寄木細工職人バヤダールさんの工房や、木工の工房を見学
- PM ■ モハンマドさんファミリーの家を訪問
 - 一家の働き手を失った女性たちが子どもたちと共同生活をする母子センターを訪問。シリアの伝統刺繍などの手芸品の制作・販売で生活再建をサポートする「イブラ・ワ・ハイト」プロジェクトに関わる母親たちに、奈良さんがアドバイス



アハダルさんの家で子どもたちの似顔絵を描く奈良さん



母子センターでは、奈良さんとJPFスタッフが新聞紙の折り紙で鬼やスリッパの作り方を教え、子どもたちは、かぶったりはいたりして盛り上がりまくった

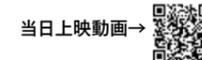


難民キャンプのアートスペースで買った、子どもの描いた絵について話す、美術家・奈良美智さん

2019年6月15日、「JPF×ART Project」として、奈良さんのヨルダン訪問の様子を初公開するイベントを開催しました。会場は、JPFのことを知らなかった多くの奈良さんファンの皆さん、企業の方々やフリーランスの方々、日本に滞在中のシリア人留学生など、130人以上の満席となりました。メディアの方々も20人以上お集まりいただき、奈良さんがヨルダンで感じたこと、「JPF×ART Project」について、多くの記事を発信していただきました。ご参加くださった方々、ご登壇者の皆様に、改めて感謝申し上げます。

第1部 動画「奈良さんのヨルダン訪問ダイジェスト」

現地で撮影した、奈良さんの様子を初公開しました。



参加者アンケートより

- ・ニュースやTVのドキュメンタリーとは違う動画から、奈良さんと難民の皆さんの関わりや日常生活を知れて良かった。子供の笑顔が良かった!
- ・難民という言葉の持つイメージと違い、今置かれた環境の中で精一杯生活している様子がわかった

第2部 ソロトーク 「難民キャンプでの出会い/いつも考えていること」

現地で奈良さんご本人が撮影した写真を見せながら、人々との出会いや感じたことを共有していただきました。「どこにいても同じようなものを撮っている。猫の写真はたくさん撮っているけど、どこに居ても猫は猫(奈良さん)」。大人も子どもも動物も同等に見つめる、奈良さんの視線が感じられました。

参加者アンケートより

- ・シリア難民のことをこれまでと違う視点でみることができた
- ・奈良さんが、キャンプの方たちに対して上からでなく自然体で接しておられて、とても身近に近所の人みたいと感じた
- ・一番びっくりしたのは、難民キャンプのスーパーでのお会計が、目の彩光認証で行われていること
- ・思いのほか楽しく日常的な写真ばかりで、いい意味でイメージと違い、自分の日常と変わらないことに感じられました

イベントレポート 「奈良美智トークイベント シリア難民の生活を体験」

世界難民の日Week
2019年6月15日開催*



公開から半日で参加お申込みが満席に



第3部では、奈良さんとともに、松永晴子さん(KnK シリア難民支援 現地事業統括)、山崎やよいさん(アラビア語通訳者 考古学者 イブラ・ワ・ハイト発起人)も惜しみなく自分の体験を共有していただきました
素晴らしいモデレーターをしてくださった、古田大輔さん(Buzzfeed Japan 創刊編集長、シニアフェロー)。JPFからは、三浦雅子(JPF事業評価部 モニタリング評価スペシャリスト)が登壇

第3部 オープンパネルトーク 「体験と会場をつなぐ/自分に置き換えてみる」

奈良さんとヨルダンの旅をともしたメンバーが、会場の皆様からの質問をいただきながらお話ししました。

奈良さんのメッセージのひとつは「置き換えてみる(例えば日本で経験した災害や、身近な人との別れなど、近い経験をした自分に置き換えてみることはできる)」。登壇者の皆さんの体験を共有し、多くの方々が自分に置き換えることができる場を目指しました。

イベントの最後には、「難民のことを参加する前より身近に感じられるようになった人?」というモデレーターの古田さんの言葉に、多くの手があがりました。

参加者アンケートより

- ・誰かに話す。共有する。共感を、自分に置き替えてみる。自分の中に共感が生まれ、何か行動ができるというのは素敵なメッセージでした。とても良い時間となりました
- ・難民に関するこんなにも笑いがあるイベントは初めて!
- ・「今を生きる、生きものの持つ強さに感心した」という奈良さんの言葉に共感。「敬虔なイスラム」と「狂信的なもの」は違うという、山崎さんの言葉も納得です。シリアの人が寛容という話も聞いて、中東の国の人々を身近に感じました
- ・シリア、ヨルダンの現実の厳しさ、将来への展望のない現状も聞いてよかった。怖くて祖国に帰れないというシリア人の声は衝撃的でした
- ・奈良さんから次の人に繋げてほしい企画。JPFを通して各団体を紹介する機会にもなればいいと思います

*本イベントは、2019年度内に開催しましたが、年次報告書発行時期により本誌にてまとめてご紹介いたします

イベント当日の様子の動画→

